

第1回 日光市文化会館等あり方検討市民委員会資料

目次

日光市文化会館等あり方検討市民委員会の役割について	2
これまでの検討状況について	4
市の財政状況について	13
まとめ	14

日光市文化会館等あり方検討市民委員会の役割について

(1) 日光市文化会館等あり方検討市民委員会の設置目的及び役割

◎設置目的

日光市文化会館及び中央公民館の整備に当たり、市民の立場から幅広く必要な意見をいただきます。

◎構成員

- ・委員15名以内(推薦委員12名・公募委員3名)
- ・総合アドバイザー2名
- ・事務局(資産経営課 他)

◎委員の役割

文化会館等の整備検討に当たり、将来を見据えてそれぞれの立場からの意見をいただきます。

◎総合アドバイザーの役割

専門的知見から文化会館等の整備に関する助言等をいただきます。

◎委員報酬

委員会1回開催(2時間程度)につき日額2,000円

◎委員会のスケジュール・流れ

次ページ参照

◎その他特記事項

委員会で協議した内容は、ホームページ等において幅広く周知します。

日光市文化会館等あり方検討市民委員会の役割について

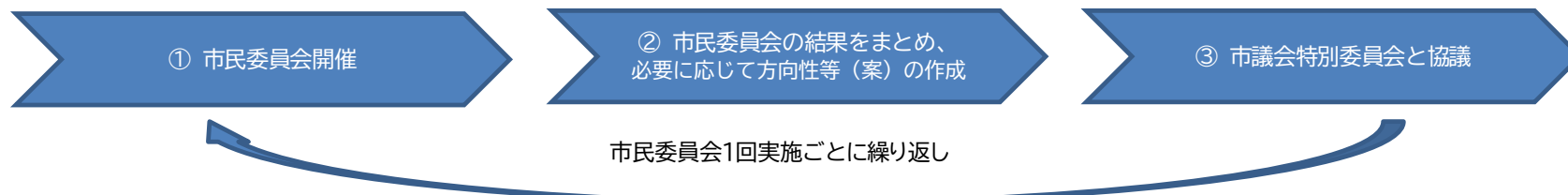
(2) 令和4年度スケジュール（案）及び検討の流れ

項目	内容	趣旨・特記事項	R4 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 日光市文化会館等あり方検討市民委員会の役割について これまでの検討状況について 市の財政状況について 	<ul style="list-style-type: none"> 文化会館等3館の今までの検討の経緯についての認識を共有するもの 現在の市の財政状況や文化会館の課題について整理し、認識を共有するもの 											
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 文化会館整備等の基本方針について（文化会館新設の是非も含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回の説明内容を踏まえ、意見をいただくもの 											
第3回	文化会館整備予定地について（予定）	<ul style="list-style-type: none"> 市の基本的な考えを示し、意見をいただくもの ※委員会及び議会との調整等によりスケジュールがずれ込む場合があります 											
第4回	文化会館に求めるものについて（予定）	<ul style="list-style-type: none"> 市の基本的な考えを示し、意見をいただくもの ※委員会及び議会との調整等によりスケジュールがずれ込む場合があります 											

皆さまのご意見をお伺いし、委員会の結果等を取りまとめ、市議会特別委員会(※)と協議します

●市民委員会後の流れ

(※)公共施設等あり方検討調査特別委員会



これまでの検討状況について

(1) 文化会館施設の位置付け

市では、公共施設を市の身の丈にあった規模とし、市の将来を担う次の世代の過度な負担とならないよう取り組むための公共施設の有効活用と改善に向けた基本方針や改善の方策をまとめた「日光市公共施設マネジメント計画」を平成27年8月策定（令和4年3月改訂）しました。また、翌年7月には、上記計画の考え方にに基づき個々の施設の具体的なマネジメントを推進するため、個別施設の具体的な行動内容、スケジュール等を示した実行計画を策定しました。

その中で、市内3つの文化会館等施設については、各施設が老朽化していることや、施設規模や設備上維持管理にかかる費用が大きい施設であることから、前述の公共施設マネジメント計画実行計画の中で、早急に検討を行うべき、先導的モデル事業に位置付けています。

＜取組No.006-1＞☆モデル事業

取組名称	文化会館機能の再編（集約）についての検討		担当課	関係課（中央公民館・日光観光課・藤原公民館）					
取組内容	3つの文化会館機能を市域で1つに集約統合することを基本として、ホール機能の集約、他公共施設の代替機能、民間施設の活用等も含め、手法等の調査・研究を行い、施設再編の実行に向けて取り組む。								
取組対象施設	今市文化会館、日光総合会館、藤原総合文化会館								
工程	当初	H28 検討	H29 協議、調整	H30 事業実施	R1	R2	R3	R4	R5
	中間見直し後	検討	今市	協議、調整	事業実施				
			日光	協議、調整	事業実施	施設廃止			
		藤原	協議、調整	施設休止	事業実施				

これまでの検討状況について

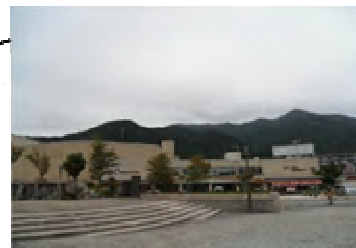
(2) 文化会館機能の再編（集約）についての検討と現状

《対象施設》

①日光総合会館（昭和47年築）



②藤原総合文化会館（昭和48年築）



③今市文化会館（昭和51年築）



いずれも老朽化が進む
1,000人規模のホール
機能を有した
3つの文化会館施設



《課題》

- 人口約8万人の自治体が、1,000人規模のホール機能を有する老朽化した施設を3つ保有している。
- ホール機能を有する施設は、更新（改修・建替え費用）に伴う事業費や、施設の維持管理費も含め多額の費用が必要となる。
- 今後も今までと同じように文化会館施設等を維持していくことは、財政的に非常に困難である。

これまでの検討状況について

各施設が整備されてきた背景、地域発展に寄与してきた歴史的な価値や存在意義等も認識した上で、直近に迫る各施設の更新時期を見据え、1館に集約することを前提に、集約の仕方等を平成28年度から市役所内部で検討してきました。

検討の結果

STEP 1

低利用かつ未耐震である日光総合会館と藤原総合文化会館の早期廃止について調整

STEP 2

新たな文化会館施設整備のあり方については、平成30年度中を目途に庁内の考え方を調整

今後のあり方について専門部会やプロジェクトチームを組織し協議・検討を実施することとしました。

※ ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれの施設においても調整に遅れが出ています

これまでの検討状況について

(3) 日光総合会館について

日光地域の関係団体などで組織された「日光総合会館検討専門部会」において、5回にわたる検討の結果、令和元年11月25日に市に対して、「日光総合会館のあり方ならびに跡地活用についての提言書」が提出されました。

< 提言書の主な内容 >

- ・ 「ホール、集会機能」などを持つ施設の整備
- ・ 駐車場機能の拡充 など



専門部会の様子



【現在】 提言書の内容を踏まえ、令和3年3月末で施設廃止

施設廃止を踏まえ、跡地利活用について民間活力の導入も視野に入れた検討を実施

- ➡ 新型コロナウイルス感染症の影響により民間事業者参入が難航
- ➡ 施設整備は新型コロナウイルス感染症の収束の状況を見て再検討
- ➡ ① まずは、日光総合会館を解体し、駐車場部分を拡充し繁忙期の渋滞対策に繋げる
- ② ホール、集会施設の整備については、今年度末を目途に方向性を定める

これまでの検討状況について

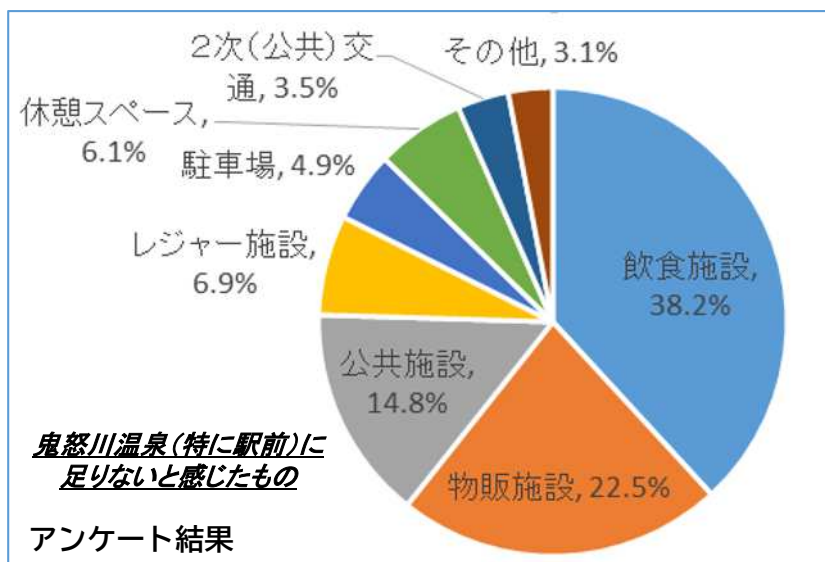
(4) 藤原総合文化会館について

【現在】耐震性の問題から、令和2年3月末で施設休止

藤原地域の関係団体などで構成される「藤原総合文化会館検討専門部会」や「藤原総合文化会館跡地利活用に関する勉強会」において、その跡地の利活用について民間活力の導入も視野に入れた検討を実施。

➡令和3年度には、観光客を対象とした「鬼怒川温泉駅前のあり方に関するアンケート」を実施

➡アンケート結果などを参考に、跡地利活用について、専門部会や勉強会による協議を継続して進める



これまでの検討状況について

(5) 今市文化会館について

【現在】耐震基準を満たしていたこと及び利用状況を考慮し暫定的に使用中

築45年を超える建物で、老朽化もかなり進んでいるため、このまま使い続けるのであれば、大規模改修が必要



など…

文化会館全体のあり方を検討する中で、方向性を定めていく

これまでの検討状況について

(6) 1館集約の検討について

庁内プロジェクトチームを設置し、令和元年度から次の3つの整備案に基づき今後の方向性の検討を行ってきました。

- 案1 今市文化会館を改修して使用する
- 案2 施設の跡地等の市有地に新たな文化会館施設を整備する
- 案3 新たな場所に新たな文化会館施設を整備する



公共施設マネジメント計画や利用実績から、次の仮定に基づきシミュレーションを行いました

- ・今後40年間使用する（改修の場合は耐用年数を考慮し20年後に建替え）
- ・利用状況を考慮し500席程度の会館施設とする
- ・今市文化会館と一体施設の中央公民館・勤労青少年ホームの建替えについても考慮する

これまでの検討状況について

単位：千円

現今市文化会館：築45年	現在～20年目		20年目～40年目		40年間の トータルコスト
大規模改修 ※1	大規模改修 ※2	3,034,490	建替え ※3	2,040,000 (3,140,000)	5,074,490 (6,174,490)
	ランニングコスト ※4	2,454,000	ランニングコスト ※4	2,454,000 (2,805,120)	4,908,000 (5,259,120)
	計	<u>5,488,490</u>	計	<u>4,494,000</u> <u>(5,945,120)</u>	<u>9,982,490</u> <u>(11,433,610)</u>
建替え500席(約3,400㎡)	建替え ※3	2,040,000 (3,140,000)	中規模改修 ※5	540,000 (870,000)	2,580,000 (4,010,000)
	ランニングコスト ※4	2,454,000 (2,805,120)	ランニングコスト ※4	2,454,000 (2,805,120)	4,908,000 (5,610,240)
	計	<u>4,494,000</u> <u>(5,945,120)</u>	計	<u>2,994,000</u> <u>(3,675,120)</u>	<u>7,488,000</u> <u>(9,620,240)</u>

上記試算条件)

- ・大規模改修費用には、一体施設である、中央公民館、勤労青少年ホームの改修費用も含む。
- ・建替え欄の()の数値は、中央公民館、勤労青少年ホームの建替え費用が含まれていないため、同規模の延床面積を持つ日光庁舎の建設費用(1,100,000千円)を建設費用として想定し、文化会館の建替え費用と合算した数値。ランニングコスト欄の()の数値は、日光庁舎の施設カルテより試算したものを合算した数値。
- ・試算に施設解体費用は含んでいない(解体費用概算196,380千円※公共施設マネジメント計画に基づく令和3年度の基準による試算)。
- ・新文化会館を市有地以外の新たな土地に整備する場合は、土地取得費等が別途発生する。
- ※1 現今市文化会館を改修して使用した場合、20年後に500席(約3,400㎡)程度の施設を整備すると仮定。中央公民館、勤労青少年ホームの整備費は含んでいない。
- ※2 改修工事費の積算は、平成27年度に実施した今市文化会館他建物診断・長期保全計画作成業務を元に積算したもの。
- ※3 建設工事費(建替)：会館対応の工事単価600千円/㎡で試算。設計・工事監理費等は含んでいない。
- ※4 改修時20年目までのランニングコストは、公共施設マネジメント白書より算出した今市文化会館のコストから積算。
- ※5 20年後に行う中規模改修費は150千円/㎡で試算。20年間継続使用において一般的に更新が必要となる設備等(給排水管、外壁補修、電気設備等)を想定。

これまでの検討状況について

庁内プロジェクトチームで検討を行った結果、次のことが分かりました

- ・今市文化会館を改修したとしても、建替えた場合に匹敵する初期費用が発生する
(舞台装置そのものを更新する必要があり、建替えに匹敵する費用が発生する)
- ・40年間の使用を想定した場合は、建替えた方が費用を抑えられる可能性がある
- ・今市文化会館は、応急的な修繕を行っても、抜本的な解決にはならない



プロジェクトチームでの仮定に基づくと、建替えた場合の方がメリットが大きいと考えられる

ただし、大きな費用が発生するため、財政的な面からも検討が必要

市の財政状況について

- 平成30年度に策定した「**長期財政の収支見通し**」について、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、令和2年度までの決算状況に基づき、令和3年10月に見直しを行いました。
- 人口減少による影響から市税の大幅な減少が見込まれるなど、歳入の減少に対応するため、財政調整基金などを取り崩していく必要がありますが、令和9年度には**基金が枯渇してしまい赤字**となる見込みです。
- このような事態に陥らないためにも、**財政健全化に向けた具体的取組を加速**させる必要があります。
- 一方、歳出では、施設や公共インフラにかかる維持管理経費や扶助費の増加が見込まれ、さらに公共施設の長寿命化や情報機器の導入によるデジタル化の推進などにかかる費用として約150億円を想定しています。
- しかし、これらの事業を全て実施することは困難なことから、実施の是非を含め、大規模事業の方向性を早期に決定する必要があります。
- 文化会館整備事業については、長期財政の収支見通しにおいて、概算費用として約20億円を計上しています。
- 財源は、公共施設の集約化・複合化をする場合に活用できる**有利な地方債**である「**公共施設等適正管理推進事業債**」を見込んでいます。（充当率90%）

まとめ

日光市の厳しい財政状況の中、市では文化会館の建設を想定しているところですが、

次回

新たに造るべきか？

いまある施設を活かすべきか？

造る場合は 第3回以降

いつまでに造るのか？

どこに造るのか？

どのような施設にするのか？

次回以降、建設の是非も含めて委員の皆さまの意見をお伺いします